

令和6年度第三者評価 改善状況報告書

令和7年3月31日

施設名	港区立南麻布高齢者在宅サービスセンター（通所介護）	施設所管課	保健福祉支援部 高齢者支援課
所在地	港区南麻布1-5-26	指定管理者	社会福祉法人 恩賜財団済生会支部東京都済生会

改善すべき指摘内容等	対応事業者 （共同事業体の場合記入）	令和7年3月までの改善状況等 （指定管理者記入欄）	令和7年4月以降の取組予定 （指定管理者記入欄）	所管課確認欄 （施設所管課記入欄）
施設運営のリスク要因（事故・感染症・災害など）を洗い出し、優先度の高いリスクに対応するため、外部研修に参加し、それに基づく内部研修も行っている。また、危機管理マニュアルや安全基準フローが策定され、災害等のリスクに応じた利用者等への対応が整備されている。 一方、職員の自己評価では、リーダー層・一般職員を含めリスク対策や再発防止対策の共有化不足の回答が散見されたことから、地域や利用者家族との連携訓練を重ね、リスクマネジメントの更なるレベルアップが望まれる。		介護保険法で定められた委員会の開催や内部研修の実施に加え、外部の研修にも参加し、研修記録の回覧を行った。	委員会の開催や内部研修の受講を継続し、複数の職員には、可能な範囲で外部研修を受講してもらう。委員会や研修の結果については、定例会等で全職員に共有していく。	法定の委員会や内部研修に加え、外部研修への参加とその内容の職員間共有が行われ、リスクマネジメント体制の強化に努めていることが確認できた。 危機管理マニュアルや安全基準の策定も進んでおり、基盤づくりが着実に進んでいる。 今年度は、リーダー層と一般職員間での情報共有の徹底や、地域・家族との連携訓練を通じた実践的な対応力の向上を期待する。
施設の経営・サービスを実現する人材の採用は、書類選考→面接→健康診断の流れで一括採用を行っている。当施設の人材確保や人員配置では、施設の経営面（稼働率等）と良質なサービス提供のバランスを考慮しながら取り組むと共に、同一法人内施設の相互協力のもと人件費削減の工夫（所長・事務員の兼務）を行い成果を上げている。 一方、今後の施設経営の持続化のためには、当施設の良質な介護人材を活用した地域のケアマネージャー等との連携強化を図ることにより、新規利用者の増加による更なる稼働率の向上が望まれる。		毎月の定例会議において、サービス内容の改善等の必要性を全職員に周知し続けた。 新規利用者を獲得するために、毎月の実績報告時やサービス担当者会議等、居宅介護支援事業所との連絡の際には、受け入れ枠に空きがあることをわかりやすく周知した。 その結果、稼働率は令和5年度と比較し、2%ではあるが改善した。	サービス内容の改善につながる取組と居宅介護支援事業所への情報提供を継続し、新規利用者の獲得に努めていく。 4月で2名、5月で5名の新規利用者を獲得できる見込みであり、引き続き稼働率の向上に向けた取組を推進していく。	定例会議を通じたサービス改善の周知や、居宅介護支援事業所への積極的な情報提供により稼働率の改善が確認できた。 人材確保においても、法人内の連携による効率的な人員配置が工夫されており、経営とサービスの両立に努めている。 今年度は、良質な人材を活かしたケアマネージャー等との連携強化を通じて、更なる利用者増と稼働率の向上を期待する。
毎月1回、プログラムミーティングを実施し、利用者が楽しみ、心身の活性化を図れるプログラムの検討を行っている。 職員は、市販のテキスト、インターネット、法人内の事業所との情報交換を通じ、新しいプログラムの作成に努めている。プログラムは、集団で楽しめる内容のほか、個人でチャレンジできる内容など、様々な企画を立てている。 一方、事業所では、メニューがマンネリ化していると分析している。アンケート結果の反応などを踏まえ、プログラムの充実に取り組むことが望まれる。		毎月の定例会議において、サービス内容の改善等の必要性を全職員に周知し続けた結果、小さな改善ではあるが、新しいプログラムを取り入れた。 施設独自の利用者アンケートでもプログラムに関する項目を設けるなど、利用者の希望内容についての情報収集に努めた。	職員に対し、サービス内容の改善の必要性を引き続き周知し続け、小さな改善だけでなく、時間の使い方等の大きな改善につなげられるよう、プログラムミーティング等で検討していく。	定例会議での職員への意識付けや、利用者アンケートによるニーズを踏まえた新たなプログラムの導入など、サービス改善への継続的な取組が見られた。 今後は、時間の使い方を含めたより大きな改善に向けて、プログラムミーティングを積極的に活用し、マンネリ化の解消と多様なニーズへの対応を更に推進することを期待する。